

★慧文社 新シリーズ★

『日本の司法福祉の源流をたずねて』

(全5巻)

司法と福祉の接点とは?

2016年5月シリーズ刊行開始!(全5巻・各250頁位)

★定期購読予約受付中!(分売可)

今日の日本の司法福祉は

どのような流れの中に作られてきたか。

これからどこへ向かえばいいのか。

先人たちの名著の数々がここに蘇る!

新刊・絶賛発売中!

第1巻 「監獄は教育事業の聖域たり」(本書より—小河滋次郎)

2016年5月刊

A5判・上製クロス装・函入
定価:本体7000円+税
ISBN978-4-86330-162-7

獄務要書 小河 滋次郎・著 (小野 修三・解題)

小河 滋次郎(おがわ・しげじろう)

法学者。号は岳洋。旧制東京専門学校(現・早稲田大学)法律学科、東京大学法学部別課法学科で学ぶ。論文「未成年者に対する刑事制度の改良に就いて」で法学博士号。内務省警保局監獄課に配属され、ドイツに留学し監獄状態を視察。万国監獄会議に出席。警視庁典獄となり、監獄法、感化法の起草に尽力。国立感化院(現・国立武蔵野学院)の設立に携わり、同院の院長事務取扱を務める。中国(清国)政府に招かれ、獄制改革を指導。また、方面委員(後の民生委員)制度の確立に尽力した。

看守(刑務官)とは何か?どうあるべきか?

旧監獄法、感化法や国立感化院、方面委員(後の民生委員)制度の確立に尽力した法学者、日本の監獄学の大家である小河滋次郎。彼が看守に向けて記した数々の「心得」に加え、感化教育に対する重要な提言論文「教養感化の要務を論ず」などを収める。小河滋次郎の優れた伝記的研究のある小野修三(慶應義塾大学名誉教授)氏による解題付き。読みやすい新字新仮名による改訂新版。

以下続刊

第2巻 感化事業とその管理法

留岡 幸助・著

2016年9月刊行予定

予価:本体7000円+税
ISBN978-4-86330-163-4

少年は大人と同じようには罰しない。なぜそうすべきなのか? 具体的にどうするのか? 14歳未満の者を刑罰の対象外とした刑法改正(1907年)と、それに伴う感化法の改正(1908年)にあたり、「感化事業の父」留岡幸助は自らの感化事業の実践を通して得た知見をもとに提言を行った。欧米の事例や当時最新の学説、統計などを紹介しつつ、犯罪の原因の分析とその解決策を探る。また、知的障がいを持つ触法少年の保護についてなど、現在の司法福祉においても重要な論考を含む。(改訂新版)

第3巻 ひしがれたる者の呻き

原 胤昭・著

2016年6月刊行予定

予価:本体7000円+税
ISBN978-4-86330-164-1

更生を阻むものは何なのか? 出獄人たちを迎える社会の準備はできているか? 前科があり、「戸籍が汚れた」がゆえに、出獄後も困難な生活を強いられていた出獄人たち。出獄人とともに生きた「免囚保護の父」原胤昭は、彼自身「国事犯」としての出獄人であった。その彼が、自分を含めた出獄人の苦境を綴ると共に、その改善案を提言する。(改訂新版)

第4巻 少年保護の法理と実際

宮城 長五郎ほか・著
少年保護婦人協会・編

2016年12月刊行予定

予価:本体7000円+税
ISBN978-4-86330-165-8

旧少年法および矯正院法の成立に尽力し、起訴猶予者・執行猶予者や思想犯転向者の保護のための制度作りにも携わった宮城長五郎らによる少年保護の概説。旧少年法の理念や運用、少年審判所の職務や手続き、少年少女に関する諸法令についての解説を収める。(執筆:宮城長五郎、牧野菊之助、小山松吉、植田兼三郎、長島毅、鈴木賀一郎、大原昇、木村尚達)(改訂新版)

第5巻 司法保護事業概説

森山 武市郎・著

2017年3月刊行予定

予価:本体7000円+税
ISBN978-4-86330-166-5

日本の保護観察制度は、治安維持法の補完法としての思想犯保護観察法から生まれた。困難な時局の中、転向者を保護する側面も持つ同法の成立に尽力し、戦後にはそれを組み替えて司法福祉に役立てた森山武市郎。彼が目指した起訴猶予者・執行猶予者・仮釈放者等の保護とは。(改訂新版)

発行:(株)慧文社 〒174-0063 東京都板橋区前野町4-49-3 TEL 03-5392-6069 FAX 03-5392-6078

小社の書籍は、全国の書店、ネット書店、TRC、大学生協などからお取り寄せ可能です。

<http://www.keibunsha.jp/>